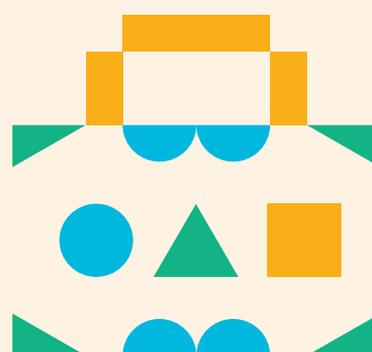
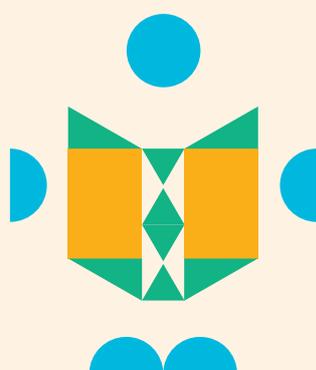
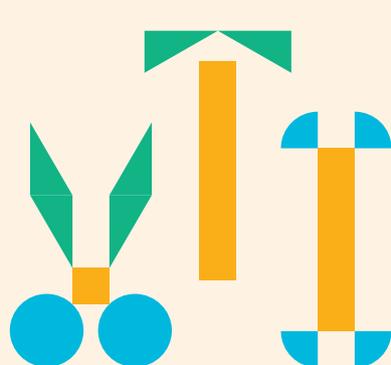

あいちトリエンナーレ 2016

エデュケーション 活動報告

Aichi Triennale 2016

Educational Activity Report



あいちトリエンナーレ2016

テーマ	虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber : A Rainbow Caravan	
芸術監督	港千尋 (写真家・著述家 多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授 (映像人類学))	
会期	2016年8月11日(木・祝)～10月23日(日) [74日間]	
主な会場	愛知芸術文化センター 名古屋市美術館 名古屋市内のまちなか(長者町会場、栄会場、名古屋駅会場) 豊橋市内のまちなか(PLAT会場、水上ビル会場、豊橋駅前大通会場) 岡崎市内のまちなか(東岡崎駅会場、康生会場、六供会場)	
企画概要	現代美術	国際展／映像プログラム
	舞台芸術	パフォーマンス／プロデュースオペラ
	普及・教育	創作プログラム／鑑賞プログラム レクチャープログラム／学校等団体向けプログラム
連携事業	モバイル・トリエンナーレ／舞台芸術公募プログラム 芸術大学連携プロジェクト／特別連携事業／並行企画事業 パートナーシップ事業／サポート体制	

はじめに／ コンセプト

あいちトリエンナーレ2016では、「文化芸術の日常生活への浸透を図る」という開催目的のもと、子どもから大人まで多様な来場者が現代芸術に触れ、アートを体感できる普及・教育プログラムを実施しました。この冊子は、その概要、成果を紹介するものです。

2015年10月から発足したエデュケーションチームは、「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」というテーマ、そして港千尋芸術監督のコンセプトシートから導きだされたいくつかのキーワードをもとに、普及・教育プログラムをつくっていきました。展示される現代アート作品と来場者がいかに出会い、体感し、それらをそれぞれの滋養として持ち帰るか、そしてそれらを喚起し、サポートするプログラムとはどのようなものであるべきか、スタッフ間で話し合いをつづけました。そこから私たちが導きだした答えを具現化したものが、今回実施されたプログラムといえます。

多くの人々が関わってつくられたプログラムの各現場では、現代アートを核とした数々の創造的行為を見ることができました。アーティストが現代社会の中で表現した作品や思想に、プログラムを通じて参加者が触れることによって起こる化学反応は、ときとして私たちの想定を超えるものとなりました。この冊子を通じてそのエッセンスを伝えることができればと思います。

最後に、普及・教育プログラム実現にあたって、ご協力いただいたアーティストをはじめとする講師の皆さま、学校関係の方々、ガイドツアーボランティア、アルバイトスタッフの皆さまなど、関係各位の皆さまに心から感謝を申し上げます。

5つのキーワード

「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」というテーマのもと
5つのキーワードで普及・教育プログラムを展開しました。

- 1 「人間性の復活」----- 自然界との連続性を再発見する
- 2 「プリコラージュの思考」----- つくることの本質にたちかえる
- 3 「オープン・クリエーション」--- 他者と共有しながら新しい表現や方法を探す
- 4 「コミュニケーション」----- アートを媒介として人と人が結びつく
- 5 「未知への旅」----- 未知なるものと出会い、好奇心を刺激され、
未来へと向かう英気を養う

来場者とアートをつなぐイメージ

来場者の行為を[アートとの出会い][みる][しる][つくる]に分け、
各プログラムのつながりをイメージしました。

4つの行為には、活動の拠点となる空間を設け、常設のプログラムを展開しました。

●アートとの出会い

「アートティーチング・トイ」によって
素材、色、かたち、デザインに出会う
活動拠点 | ダミコルーム

●みる

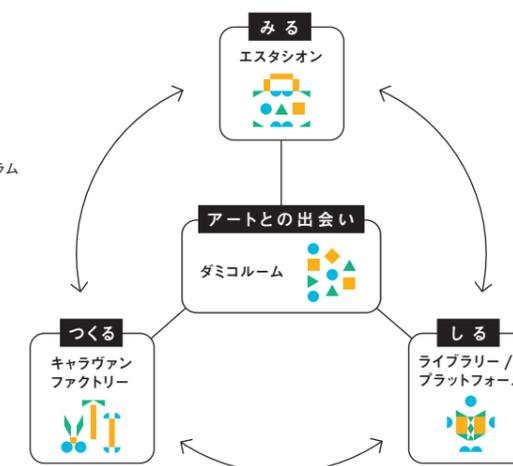
鑑賞補助ツールを借りる。
ワークシートを受け取る、鑑賞ツアーに参加する
プログラム | 鑑賞プログラム、学校向け団体鑑賞プログラム
活動拠点 | エスタシオン

●つくる

創意工夫による「プリコラージュ」などを体験
プログラム | 創作プログラム、アーティストプログラム
活動拠点 | キャラヴァンファクトリー

●しる

関連図書の閲覧、レクチャーの聴講
プログラム | レクチャープログラム
活動拠点 | ライブラリー / プラットフォーム



4つの 活動拠点と 空間デザイン

「アートとの出会い」「つくる」「みる」「しる」活動の拠点となる4つの空間は、国際展参加アーティストである「L PACK.」が、それぞれの空間で行うプログラムや、来場者の動きに合わせた空間デザインを手がけました。子どもから大人まで親しみやすく、自発的な活動が引き出される魅力的な空間で、プログラムを体験してもらうことができました。



アートとの出会い



つくる



みる



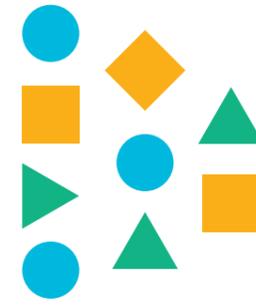
しる



「ライブラリー/プラットフォーム」の模型をみて検討する様子(写真1)
「キャラヴァンファクトリー」「エスタシオン」制作の様子(写真2、3)
L PACK.による「キャラヴァンファクトリー」アイデアスケッチ(写真4~6)

L PACK. L PACK. は、小田桐奨と中嶋哲矢によるユニット。2007年に結成し、東京を拠点にアート、デザイン、建築、民芸などさまざまな領域を横断しながらアーティストと鑑賞者、地域の人々とのコミュニケーションの場を創造している。今回は、名古屋を拠点とする青木一将が率いるミラクルファクトリーと協同して、4つの活動拠点を作り上げた。このミラクルファクトリーは、アーティストの展示・制作プランを実現するべくあいちトリエンナーレ2010の際に結成された。2010年以降、毎年長者町のえびす祭りに登場するKOSUGE1-16の山車は彼らが制作したもの。

D'Amico Room



ダミコルーム

会場 | 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースH
活動時間 | 10:00 ~ 17:00 (最終受付 16:00)
来場者数 | 21,012人

ニューヨーク近代美術館初代教育部長であるビクトル・ダミコが設計した美術教育装置「アートティーチング・トイ」をビクトル・ダミコ・インスティテュート・オブ・アートから借用し、愛知芸術文化センター 12階アートスペースHに設置しました。

来場者は、「アートとの出会い」として、「アートティーチング・トイ」で遊ぶことによって、色、かたち、素材、光などアートを構成する要素を直感的に体験します。さらにその後続く体験として、さまざまな素材によるコラージュを行います。これは「アートティーチング・トイ」による「動機付けエリア」と、絵の具の体験やコラージュを体験する「ワークショップエリア」という2つのエリアを設置したダミコの基本的な考えを反映させたものです。

装置自体は4歳~12歳の子どものためのものですが、ここでは大人にも参加を促しました。大人の来場者にも好評で、子ども同様に長い時間を過ごす人もいました。

会場にはビクトル・ダミコの功績を紹介するパネルを展示し、「アートティーチング・トイ」が作られた思想的な背景を紹介しました。

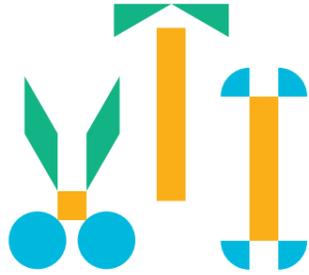
アートティーチング・トイとは？

ビクトル・ダミコは、知覚・運動感覚によって美的な体験を促す「アートティーチング・トイ」を搭載した「こどもアートキャラバン #1 動機付けエリア」と、絵の具による色の体験と豊富な素材によるコラージュの体験をする「こどもアートキャラバン #2 ワorkshopエリア」の2つのトレーラー型のキャラバンを1965年にデザインしています。詳細な図面を引くところまで計画は進んだものの、資金調達が難航し実現には至りませんでした。その後、「こどもの城」(国立総合児童センター)の当時のスタッフで、ビクトル・ダミコ研究の第一人者である前田ちま子氏(現:名古屋芸術大学名誉教授)がその青写真を発見し、アーティストの高橋士郎氏(現:多摩美術大学教授)らの協力のもと1995年にこどもの城で「ビクトル・ダミコ」展が開催された際に復元されました。

活動の流れ

1. 説明を受け、魅惑の門をくぐって中へ(写真1)
2. トイで遊ぶ(写真2~4)
3. コラージュ体験(写真5、6)
4. ギャラリーに展示(写真7、8)





キャラヴァンファクトリー

会場 | 愛知芸術文化センター 12階 アートスペースG
 活動時間 | 10:00 ~ 17:00 (最終受付 16:00)
 来場者数 | 22,601人

人類誕生から続く人間の「ものをつくる」という行為そのものに焦点をあて、ものづくりを楽しむ活動を行いました。子どもから大人まですべての人が対等な立場で創作活動を楽しみ、「創意工夫」に挑戦し、体験を共有することのできる活動を目指しました。土日祝日は「創意工夫」をテーマにグループで協力して一つのものを作る『とことんプログラム』、平日はトリエンナーレのテーマや展示作品のコンセプトに近づくような『のびのびプログラム』、世界を見る、聞く、知ることをテーマにした、常設の『いつでもプログラム』の3つを展開しました。

とことんプログラム

8月毎日・9月と10月の土日祝日に1日4回実施しました。当日先着受付で、各回10組30名程度が参加し、グループで創意工夫にチャレンジします。スマートボール台を使って、偶然に選ばれた3つのキーワードが全て適うような“なにか”をその場にある材料と道具を使って制作しました。

活動の流れ

1. キーワードを決める (写真2)
2. グループで協力して制作 (写真1、3、4)
3. 発表 (写真5、6)

のびのびプログラム

9月以降の平日に実施したいつでも参加できるプログラム。5分から10分程度で活動できるプログラムを常時3つ~4つ用意し、約2週間単位で活動内容を入れ替えました。プログラム内容はトリエンナーレのテーマや作品などから考えられました。

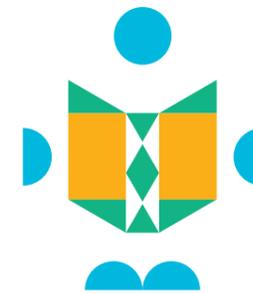
- ・イエローオーカーで模様を描こう (写真7)
- ・つぎはぎエアー (写真8)
- ・つながるてちず (写真9)
- ・いろシャワー (写真10)



いつでもプログラム

会期中常時、だれもが参加可能なプログラムを実施しました。壁面にさまざまな素材を貼付けたり置いたりして自由にみることができる「世界をみる」、日用品にレコーダーを取り付け、テーマにあわせた内容を聞くことができる「世界を聞く」、提示されたテーマの中で参加者自身が知っていることを書き、来場者と共有する「世界を知る」の3つの活動がおこなわれました。

いつでもプログラムの様子 (写真1~4)



ライブラリー / プラットフォーム

会場 | 愛知芸術文化センター 8階 展示室J
 活動時間 | 10:00 ~ 18:00 (金曜日は20:00まで)

ライブラリー

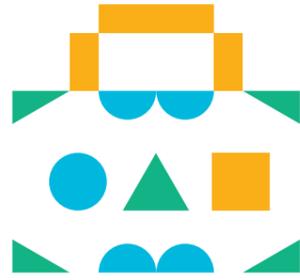
国際展参加アーティストやトリエンナーレスタッフ、レクチャープログラム登壇者から推薦された本、カタログ、雑誌や小冊子など、トリエンナーレ関連の書籍を配架し、来場者が「知的な旅」を楽しむ場としてライブラリーを設置しました。また、コラムプロジェクトの展示会場にもなりました。

プラットフォーム

ベンチやイスを配して来場者が自由に休憩しつろげるスペースにしました。レクチャープログラムの会場として、また、学校向け団体鑑賞プログラムのガイダンス場所としても活用しました。

- ライブラリーで書籍を閲覧する様子 (写真1)
- ライブラリーに並べられたレクチャー「美術の世界へようこそ! 歴史を旅するボードゲームで遊ぶ」資料 (写真2)
- プラットフォームの様子 (写真3)
- プラットフォームでのレクチャーの様子 (写真4)





エスタシオン

鑑賞を支援するためのエデュケーション活動拠点の一つとして、エスタシオンを各会場に設置しました。エスタシオンとは、ポルトガル語で「駅」という意味。来場者は各会場に設置されたエスタシオンに気軽に立ち寄り、トリエンナーレの作品鑑賞をより楽しむためのツールを手に入れることができます。

エスタシオンの空間設計を行ったL PACK.からは空間デザインだけでなく、「未知なる出会い」を求める「未知なる旅」をサポートする拠点としての提案を受け、全エスタシオンを巡ることによって完結する“クエスチョンシートの質問の答えを探す”というアクティビティを追加して、活動により大きな膨らみを持たせることができました。駅のホームや待合室、ロッカー、掲示板など駅を連想させるオブジェクトが点在する楽しい空間となりました。

会場 | 愛知芸術文化センター 10階 ラウンジ

活動時間 | 10:00~17:00 (金曜日は19:00まで)

※キャラヴァンバッグの貸し出しは活動時間の終了1時間前まで

活動内容 | 鑑賞支援ツール「キャラヴァンバッグ」の貸し出し、クエスチョンシート、ワークシートの配布など
クエスチョンシートの答えの見つけ方 | タブレット端末で自由に閲覧する

会場 | 名古屋市美術館 1階 ロビー

活動内容 | クエスチョンシート、ワークシートの配布など

クエスチョンシートの答えの見つけ方 |

答えが記されたカードを、箱からおみくじを引くようにして手に入れて読む

会場 | 豊橋地区／穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 1階

活動内容 | クエスチョンシート、ワークシートの配布など

クエスチョンシートの答えの見つけ方 |

電光掲示板に順番に流れている答えを見つける

会場 | 岡崎地区／岡崎シビック 1階 ビジターセンター内

活動内容 | クエスチョンシート、ワークシートの配布など

クエスチョンシートの答えの見つけ方 |

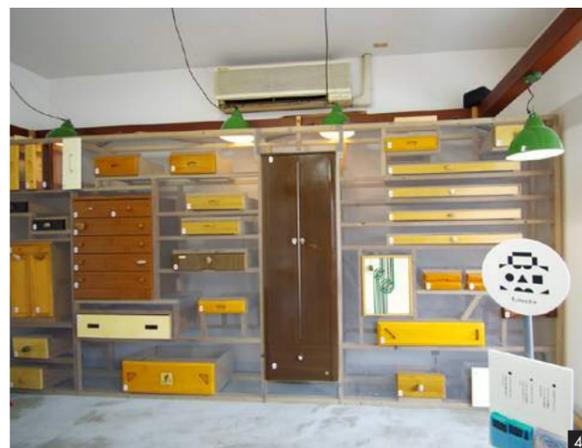
壁に設置されたたぐすの引き出しを引いて中にある答えを見つける

愛知芸術文化センターのエスタシオン (写真1)

名古屋市美術館のエスタシオン (写真2)

豊橋地区のエスタシオン (写真3)

岡崎地区のエスタシオン (写真4)



クエスチョンシート (写真1~4)

“なぞのクエスチョンマスター E”からの挑戦状というかたちで参加アーティストなどからの138の質問が載ったワークシート。日々のちょっとした気になるところから、展示されている作品や国際展参加アーティストに関することなどさまざまな質問を掲載しました。表紙の部分では、各エスタシオンに置かれた顔のパーツのスタンプを組み合わせることで“なぞのクエスチョンマスター E”の顔をつくることのできる仕掛けもありました。

キャラヴァンマップ (写真5, 6)

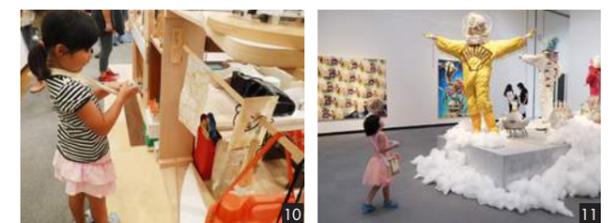
作品鑑賞のきっかけとなる問いかけとイラストが描かれたワークシートを配布しました。

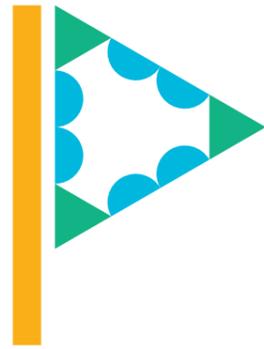
鑑賞支援ツール「キャラヴァンバッグ」 (写真7)

[かんたん・ふつう・むずかしい]の3種類のバッグを用意し、16種類のツールを難易度別に詰め合わせました。1つのバッグに複数のツールがあることで、色々な見方を試してみることができました。

利用者数4,605人

- チャレンジカード (写真8)
カードに書かれた見方で作品をみることに挑戦
- オノマトベカード
オノマトベ(擬音語・擬態語)をカードの中から探す
- 五感カード
カードに書かれた五感を使う見方で作品をみることに挑戦
- 記念撮影
作品をみて感じた気持ちと近いものをカードから探して一緒に記念撮影
- さがしてカード
展示作品の一部を撮影した写真から作品を探す
- じっとみてる (写真9)
砂時計を使ってじっくりみたいと思った作品を砂が落ちきるまでみてる
- たくさん気づく (写真10)
作品のから気づいたことをカウンターを使って数えてみる
- いろくじ (写真11, 12)
ルーレットで偶然選ばれた色を作品の中からみつけてみる
- さわる
箱に指を入れて中にある素材を触りながら作品の触り心地を想像してみる
- 考えてみる
ワークシートの質問について考えてみる
- 鑑賞ノート
作品の写真を見て質問を書き込む
自分で考えた質問をだれかに答えてもらう
- いい質問ですね
トリエンナーレを楽しむためのいい質問を考える
- うたをつくる
作品を選んで、5・7・5の俳句にしてみる
- サライえはがき
作品の好きなところをワークシートに描く
- おすすめマップ
展示室の図面の中に気になったことを書き込んでいく
- 座れるチャンス
作品を決めてクッションの上ですわったら好きなだけ鑑賞する





鑑賞プログラム

幅広い層を対象とした鑑賞プログラムを実施しました。そこでは、展示される作品を媒介とした人と人とのコミュニケーションが促されることを目指しました。

ベビーカーツアー (写真1、2)

ベビーカーに乗った子どもと大人がキュレーターと一緒にゆったり作品鑑賞をしました。
 対象 | 18ヶ月までの子どもと保護者
 時間 | 10:00~11:00
 場所 / 実施回数 | 愛知芸術文化センター / 2回、
 名古屋市美術館 / 2回
 総参加組数19組

こどもキャラヴァン (写真3、4)

子どもだけのグループで気になる作品をじっくり鑑賞しました。
 対象 | 小学生~中学生
 時間 | 10:30~12:00
 場所 / 実施回数 | 愛知芸術文化センター / 2回、
 名古屋市美術館 / 2回、
 豊橋地区 / 1回、岡崎地区 / 2回
 総参加人数67名

かぞくキャラヴァン (写真5、6)

子どもと大人で分かれて同じ作品を鑑賞し、気になる部分を撮影し視点の違いを比べました。
 対象 | 小学生~中学生とその保護者
 時間 | 10:30~12:00
 場所 / 実施回数 | 愛知芸術文化センター 2回
 総参加組数13組

イスに座って鑑賞会 (写真7)

トリエンナーレスタッフと一緒に展示室にイスを持ち込んで、作品の前で座って対話しながらゆったり作品鑑賞を楽しみました。
 対象 | だれでも
 時間 | 18:00~19:30
 場所 | 愛知芸術文化センター
 参加人数11名



高校生鑑賞プログラム「人間の旅をはじめよう」 (写真8)

作品鑑賞、グループディスカッションを通して作品理解を深め、自分の考えをマインドマップとしてまとめました。
 対象 | 高校生
 時間 | 9:45~16:30
 場所 | 愛知芸術文化センター
 参加人数95名

視覚に障がいのある方との鑑賞会 (写真9)

作品に触れたり、ボランティアガイド(アートな美)の解説を聞いたりしながら、作品鑑賞をしました。
 対象 | 視覚に障がいのある方
 時間 | 10:30~12:30、13:30~15:30
 場所 / 実施回数 | 愛知芸術文化センター / 2回
 総参加人数18名

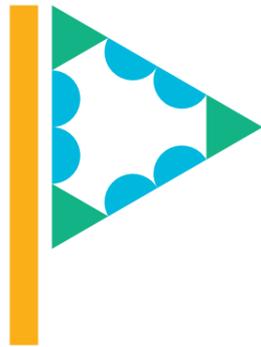
聴覚に障がいのある方との鑑賞会 (写真10)

ガイドツアーボランティアと筆談で対話しながら作品を鑑賞しました。
 対象 | 聴覚に障がいのある方
 時間 | 10:00~11:30
 場所 / 実施回数 | 愛知芸術文化センター / 2回
 総参加人数21名

ガイドキャラヴァン (写真11)

ガイドツアーボランティアによる作品ガイドを各会場で実施しました。
 対象 | だれでも
 所用時間 | 各回1時間程度(実施時間や回数は会場毎に異なる)
 場所 / 実施回数 |
 [名古屋地区] 愛知芸術文化センター 10階 / 87回
 愛知芸術文化センター 8階 / 87回
 名古屋市美術館 / 68回
 長者町会場 / 92回
 [豊橋地区] 豊橋駅前大通会場 / 92回
 [岡崎地区] 康生会場~六供会場 / 92回
 (※8/27から康生会場と六供会場は別々に実施。回数はその合計)
 総参加人数4,747人





ガイドツアーボランティア

ボランティアによる作品ガイド「ガイドキャラヴァン」を担うガイドツアーボランティアを募集・育成しました。ガイドの目的を「個々の作品の鑑賞を通じて、トリエンナーレのテーマと作品への理解を深め、また複数の鑑賞者と体験を共有することによって、鑑賞者に新たなものの見方や発見を提供する」とし、対話によるガイドで参加者とのアート作品を媒介としたコミュニケーションを生むことを目指しました。

●募集

ボランティアは「会場運営」と「ガイドツアー」の2つの役割で募集しました。ガイドツアーボランティアは、希望者の中から選考により決定しました。作文と面接の審査により、70名の方がガイドツアーボランティアとして登録されました。

●育成

ガイドツアーボランティアは、ボランティア全体への研修のほかに、開催年の4月から開幕後にかけてさまざまな研修を実施しました。また、研修の他に、取り組むテーマごとにグループに分かれて自主勉強会が行われました。

4～7月 | 専門研修

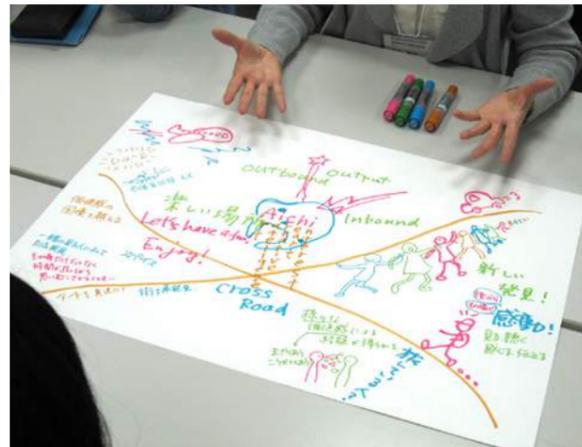
鑑賞教育についての座学に加え、対話式のガイドに必要なコミュニケーションスキルを伸ばすワークショップや模擬ガイド実践を行いました。また、キュレーターが出展アーティストや展示会場についてのレクチャーを行いました。

- 4月24日 専門研修①オリエンテーション
- 5月22日 専門研修②基礎編
- 6月19日 専門研修③応用編
- 7月17日 専門研修④実践編

6～8月 | 集中研修

筆談ガイドの研修ではNPO法人愛知県難聴・中途失聴者協会から講師を迎え、聴覚障がい者の特性を学び、実践をとおして筆談を習得しました。また学校向け団体鑑賞プログラムの研修では、小中学生の各学年にあわせたガイダンスを全員で考えました。ともに自主勉強グループのメンバーを中心に開催されました。

- 6月12日 聴覚に障がいのある方との鑑賞会における筆談ガイドの研修
- 7月6日 学校向け団体鑑賞プログラムについての研修
- 8月12日 学校向け団体鑑賞プログラムについての話し合い
- 8月14日 聴覚に障がいのある方との鑑賞会についての話し合い



5～8月 | 自主勉強グループ

「鑑賞」「アーティスト情報」「まちなか」「筆談」「学校団体」のグループに分け、勉強会を行いました。

「鑑賞」グループ／鑑賞の方法についての研修を各グループで実施しました。「まちなか」グループ／会場となったまちの歴史や会場となる建築物などの情報収集や会場の確認、制作の始まっているアーティストについての情報を共有しました。「アーティスト情報」グループ／情報収集のほかキュレーターによるレクチャーを合同勉強会として開催しました。

8月 | 直前研修

実際の会場と作品を見学し、作品についてのレクチャーを行いました。

- 8月12日 愛知芸術文化センター
- 8月16日 長者町会場、名古屋市美術館
- 8月17日 岡崎地区
- 8月18日 豊橋地区

9～10月 | 中間研修

会期中で、展示内容や活動の変更点などの確認を行いました。9月9日、10月7日

11月 | 振り返り

閉幕後に活動のまとめと振り返りを行いました。11月13日

ボランティアの方の声

- ・グループの自主勉強会では、先輩ボランティアから実践的なお話が聞けるなど、研修の内容を深めることができました。また、同じ目的の人たちと学ぶのは、とても楽しかったです。(30代女性)
- ・「『わからない』という意見があったとしても、『わからない』ということを共有することにも意味がある。」と参加者から言われたことが印象に残っています。(50代女性)
- ・対話型のガイドには、作品という共通のものを分かち合い、それぞれの角度から観た感覚を引き出したり、共有したりする。そんなプロセスを皆で感じられる喜び、楽しさがあります。(50代女性)
- ・ガイドをすることで、作品の物語を意識して鑑賞をするようになりました。また、相手の立場や状況を考えた対話を心がけるようになりました。(20代男性)
- ・ガイドの仕方を考えたり、作品の捉え方を参加者から学んだりして、毎回、とても成長させてもらっています。(50代女性)
- ・自主勉強会で通ううちに、会場となったまちに親近感を覚えるようになりました。(50代男性)





学校向け団体鑑賞プログラム

授業、校外学習などさまざまな学校行事を活用して、児童・生徒に世界最先端の現代アートに触れてもらうため、学校向け団体鑑賞プログラムを実施しました。ガイドツアーボランティアによるガイダンスを含む鑑賞や、自由鑑賞で会場を鑑賞するメニューをプログラムとして提示し、参加を募ったところ、県内各地域から幅広く参加があったほか、県外からも参加があり、合わせて90校、3,716人の児童・生徒が来場しました。

ガイダンスと自由鑑賞のサポート

愛知芸術文化センターでは、ガイドツアーボランティアがガイダンスと自由鑑賞のサポートとして展示室を案内しました。ガイドツアーボランティアの自主勉強会グループとして集まった「学校団体グループ」が中心となって、ガイダンスの内容を考えたり、当日提示する写真パネルや地図を作成しました。

ワークシートの配布

学校向け団体鑑賞プログラム参加者向けに、自由鑑賞時に児童・生徒が使用するワークシートを2種類作成し、公式Webサイトに印刷用データを掲載しました。

学校団体の来場実績

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他(合同)	計
24校 (26.7%)	33校 (36.7%)	19校 (21.1%)	1校 (1.1%)	8校 (8.9%)	3校 (3.3%)	2校 (2.2%)	90校 (100%)

[]は特別支援学級数で内数

実績(人数)

小学校	中学校	高等学校	専門学校等	特別支援学校	外国人学校	その他(合同)	計
1,792人 (48.2%)	1,091人 (29.4%)	585人 (15.7%)	82人 (2.2%)	61人 (1.6%)	29人 (0.8%)	76人 (2.0%)	3,716人 (100%)

実績(地域別・学校数)

名古屋市	尾張	海部	知多	西三河	東三河	県内計	岐阜県	滋賀県	三重県	静岡県	県外計	計
37	20	6	3	8	6	80	1	4	1	4	10	90



愛知芸術文化センター

実施日 | 8月15日(月)～10月21日(金)の毎日(土、日、祝日、休館日を除く)

鑑賞方法 | 以下の2つから選択

- ①ガイダンス及び自由鑑賞(全体で1～2時間程度)
- ②自由鑑賞(90分程度)

観覧料 | 無料(引率の教員を含む)

名古屋市美術館

実施日 | 8月16日(火)～10月21日(金)の火曜日と金曜日(休館日を除く)

鑑賞方法 |

- ・ガイダンス及び自由鑑賞(全体で90分程度)
- ・各回80名まで

観覧料 | 無料(引率の教員を含む)

豊橋地区/岡崎地区

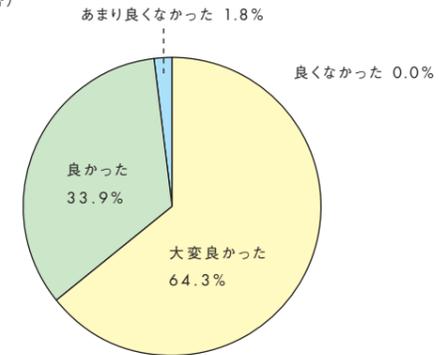
実施日 | 会場との調整による

鑑賞方法 | 自由鑑賞のみ

アンケート結果

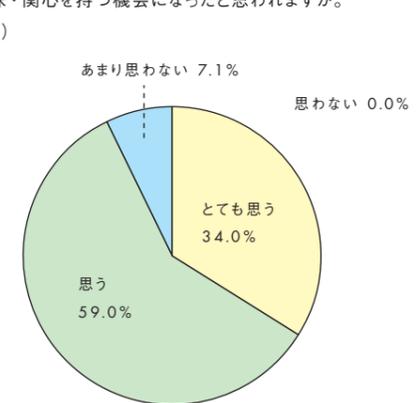
学校向け団体鑑賞プログラムに参加していかがでしたか。

(56校から回答)



学校向け団体鑑賞プログラムに参加したことで、貴校の児童・生徒が現代美術に興味・関心を持つ機会になったと思えますか。

(56校から回答)



プログラム参加校の声

- ・一つ一つの作品についてわかりやすく説明していただき、子どもたちが興味を持って鑑賞できた。
- ・アーティストの考えや思いを知ることができ、作品をより身近に見ることができる。
- ・ガイドの方の説明がわかりやすく、生徒が初めて現代美術を見るのに参考になった。
- ・美術館が初めての生徒も多く良い機会となった。
- ・ボランティアさんがとても親切に説明してくださった。
- ・アートのさまざまな表現方法に驚き、子ども同士が話す姿勢が見られた。
- ・印象に残った作品を聞いたら抽象的な作品が多く、現代美術を感覚的に好きと感じている様だった。
- ・作品を観たり話を聞いたりしている時の生徒の表情が素晴らしいかった。
- ・本物の作品に触れる良い機会。今後も続けたい。

児童・生徒の声

- ・感想を共有できて新鮮だった。目で見るもの、耳で聞いて感じるものがあり面白かった。
- ・わけのわからないものでなくなった。単純に面白かった。心に響くものがあった。
- ・ガイドに載っていない話が聞けた。色々な考えや表現の仕方があると思った。世界観が広がった、など。





アーティスト派遣事業

アートとの出会いを通じて、より多くの子どもたちの感性や創造性の成長に働きかけるため、アーティストを学校に派遣しました。国際展参加アーティストのオスカー・ムリーリョ及び松原慈の本派遣事業では、児童・生徒があいちトリエンナーレ2016の展覧作品の制作過程に関わりました。

オスカー・ムリーリョ（国際展）（写真1）

アーティストが多くの国で長期的に行ってきた「フリークエンシーズ・プロジェクト」を県内の学校で実施しました。5ヶ月間にわたって子どもの机に張られたキャンバスには、教室での楽しい雰囲気、子どもの創造性や日々の成長が記録されました。キャンバスは、アーティストの作品の一部として展示されました。

- 岡崎市立秦梨小学校 参加人数16人
- 学校法人カンティニョ学園 参加人数115人
- 名古屋市立御園小学校 参加人数51人
- 豊橋市立石巻小学校 参加人数63人

松原慈（国際展）（写真2）

愛知県陶磁美術館にて、子どもたちは普段とは異なる環境での複数の活動を楽しみながら、新鮮かつ充実した特別な一日を過ごしました。子どもたちが感じとった光、手触り、香り、人と人の結びつきなどが粘土によって形づくられ、それらは陶芸館にて焼成され、アーティストの作品として展示されました。

- 愛知県立名古屋盲学校 参加人数16人
- 愛知県立岡崎盲学校 参加人数10人

山田うん（パフォーミングアーツ）（写真3）

子どもたちは次々と流れるさまざまな音楽のリズムや曲の雰囲気、アーティストのかけ声に合わせて、自然と湧き上がってくるエネルギーを分散させ、楽しみながら身体を動かしました。

- 豊橋市立くすのき特別支援学校 参加人数64人

佐藤克久（国際展）（写真4）

「ウソ」をテーマに美術部の生徒たちを対象に2日間にわたって実施しました。絵やコラージュなどの制作を通じて、生徒が自身の内面に向き合うことによって真実に近づいていく過程を、2種の方法で作品化しました。それらは名古屋市美術館地階キッズコーナーにて展示されました。

- 学校法人滝学園 滝中学校・滝高等学校 参加人数32人



アーティストプログラム

国際展参加アーティストによる（またはコラムプロジェクトの関連事業として）プログラムを実施しました。岡崎地区や豊橋地区での開催のほか、愛知県児童総合センターや名古屋市美術館と共同開催など、他施設との連携を試みました。

コラムプロジェクト（写真1）

「交わる水-邂逅する北海道／沖縄」によるプログラム「旅するお弁当」
北海道と沖縄の食材について学びながら親子で一つのお弁当を作りました。
対象 | 小学4年生～中学生とその保護者
時間 | 10:00～12:00
場所 | 愛知県児童総合センター
参加組数7組

小林耕平さんによるプログラム「東海中膝栗毛を5分で表現する」(写真2)
東海中膝栗毛の一場面を日用品でオブジェを作り、それらを使って説明しているところを撮影し映像作品にしました。
対象 | 小学生以上
時間 | 10:30～16:00
場所 | 豊橋地区
参加人数5名

二藤建人さんによるプログラム「だれかの重さを考える」(写真3)
自分の重さを感じるようにだれかの重さを感じるにはどうすればいいのか参加者全員で考え、二藤さんが作った特別な装置で体感しました。
対象 | 小学生以上
時間 | 10:00～16:00
場所 | 岡崎地区
参加人数9名

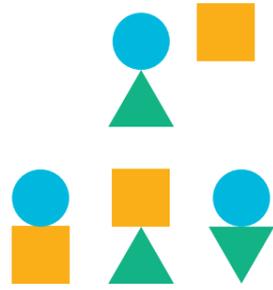
どうくつに絵を描こう（写真4、5）

小さなライトを手に、コンテを使い、洞窟の中に、自分にとってなくてはならないものを書きました。
対象 | だれでも
時間 | 10:30～11:30、14:00～15:00
場所／実施回数 | 名古屋市美術館地階キッズコーナー／2回
参加人数158名

アーティストメント（写真6、7）

作品を鑑賞して、気になるアーティストの作品の特徴をつめこんだ TENT をつくりました。
対象 | 小学4年生～6年生
時間 | 10:00～15:30
場所 | 名古屋市美術館2階講堂
参加人数15名





レクチャープログラム

アーティストトーク及びシンポジウム

来場者が作品理解を深めるためのプログラム。あいちトリエンナーレ2016参加アーティストが登壇し、自作について語りました。

シンポジウム

- 8月12日(金) 「トランスディメンション—イメージの未来形」
[第1部] パネリスト | 港千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)、
勝又公仁彦(コラムプロジェクトトランスディメンション—イメージの未来形)参加アーティスト)
モデレーター | 後藤繁雄(同プロジェクトディレクター)
- [第2部] パネリスト | 横田大輔、小山泰介、赤石隆明
(以上、同プロジェクト参加アーティスト)
モデレーター | 後藤繁雄(同プロジェクトディレクター)
参加人数42人

アーティストトーク

- 8月12日(金) シュレヤス・カルレ(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数22人
- 8月13日(土) グリナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ
(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数24人
- ヨルネル・マルティネス(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数23人
- 8月14日(日) タロイ・ハヴィニ(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数44人
- 8月15日(月) 松原慈(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数68人
- 9月3日(土) 岡部昌生(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数102人
- 9月11日(日) 佐々木愛(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数52人
- 9月18日(日) 中村裕太(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数28人
- 9月22日(木・祝) 野村在(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
参加人数49人
- 10月16日(日) 関口涼子(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト) +
フェリペ・リボン(写真家) × 港千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)
参加人数37人



トリエンナーレのコンセプトなどに関するプログラム ほか

来場者がトリエンナーレのテーマやコンセプトへの理解を深め、アートとの出会いや新たな発見を楽しむためのプログラム。芸術監督やキュレーター、参加アーティストやさまざまな分野の専門家が登壇しました。

8月14日(日) オープニングシンポジウム

「旅・創造・共同体」
モデレーター | 港千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督) パネリスト | 拝戸雅彦
(あいちトリエンナーレ2016 国際展チーフ・キュレーター)、ダニエラ・カストロ(あいちトリエンナーレ
2016 国際展キュレーター)、服部浩之(同)、金井直(同)、ゼイネップ・オズ(同)
ゲスト | 白川昌生(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)、アデ・ダルマワン
(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト/ルアルバ ディレクター)

それぞれの立場と背景を織り交ぜながら、今回のテーマである創造の視点から
導きだされる「共同体」のあり方について語り合いました。
参加人数160人

8月13日(土) レクチャー

「沖繩—ソウル：アジア／アート／女性の視点から自作を語る」
スピーカー | 山城知佳子 × ソン・サンヒ(ともにあいちトリエンナーレ2016 国際展参加
アーティスト) × 趙純恵(同国際展アシスタントキュレーター)

アジアの近現代史を軸に、特定の地域とそこに生きた人間の様相に焦点を
あてながら活動する二人のアーティストによるトークセッション。
参加人数64人

8月21日(日) シンポジウム

「言葉の記録 日本現代美術のオーラル・ヒストリー
—80年代後半から90年代前半の名古屋のアートシーンをめぐって—」
スピーカー | 加治屋健司(東京大学准教授)、庄司達(造形作家)、島敦彦(愛知県美術館
館長)、高橋鏡子(名古屋芸術大学教授)

当時の関係者へのインタビューから文献にはない歴史を捉える「オーラル・
ヒストリー」を通して、名古屋のアートシーンを振り返りました。
参加人数77人

8月27日(土) レクチャー

「ビクトル・ダミコのアートティーチング・トイ—動機づけの原理—」
スピーカー | 前田ちま子(名古屋芸術大学名誉教授) × 松村淳子(あいちトリエンナーレ2016
エデュケーター)

ニューヨーク近代美術館初代教育部長であるビクトル・ダミコ考案のアート
ティーチング・トイが視覚や触覚、運動感覚を刺激するしくみを探りました。
参加人数47人

8月28日(日) レクチャー「アートに音を視る」

スピーカー | 小沼純一(早稲田大学文学部教授) × 港千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)

虹の7色は音階からきていると言われていています。アートとサウンドの創造的関係
をトリエンナーレに探りました。
参加人数66人

9月2日(金) ディスカッション

「芸術祭における人材育成と雇用を考える—レクチャー&ディスカッション—」
スピーカー | 吉澤弥生(共立女子大学准教授) × 石崎尚(愛知県美術館学芸員)

労働、政策、運動、地域という視点から現代芸術を考える研究者と、芸術祭
に関わる人々の雇用問題を考察しました。
参加人数35人

9月3日(土) レクチャー

「美術の世界へようこそ! 歴史を旅するボードゲームで遊ぶ」
講師 | 山中麻未(ゲームデザイナー)

歴史上の出来事や実在の作品に取材し、美術教育のためのツールとして制
作されたゲームについて、デザイナーによるトークと試遊を行いました。
参加人数37人

9月4日(日) レクチャー

「シルクロードにおける文化遺産の危機と保護：シリア・イラクを中心に」
スピーカー | 西山伸一(中部大学准教授) × 港千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)

シリア内戦などによりシルクロード上の、特に西アジアの文化遺産が危機的
状況にある今、その現状と保護について研究者が語りました。
参加人数75人

9月10日(土) レクチャー

「浅野祥雲 —B級と文化・美術のはざまで—」
スピーカー | 大竹敏之(ライター) × 中村史子(愛知県美術館学芸員)

浅野祥雲が残したコンクリート像を通して、B級スポットと文化・美術を隔てて
いるものは何かを考察しました。
参加人数67人

9月11日(日) レクチャー

「展示照明のワークショップ」講師 | 伊藤啓太(舞台照明/ゲーム開発)

展示照明に関するトークと、さまざまな照明効果を用いたワークショップにより、
光を通して作品を「みる」ことのつながりについて考えていきました。
参加人数43人

9月17日(土) レクチャー

「なぜものがそう見えるのか? 視知覚のメカニズム」
スピーカー | 小松英彦(生理学研究所教授) × 副田一穂(愛知県美術館学芸員)

「見える」とは、脳の中で何が起きているのか? 我々にはありのままの世界
が見えているのか? など、視知覚のしくみに迫りました。
参加人数61人

9月18日(日) シンポジウム

「現代美術の保存と修復」
パネリスト | 天野太郎(横浜市民ギャラリーあざみ野首席学芸員)、岡田温司(京都大学大
学院教授)、田口かおり(修復士、日本学術振興会特別研究員)

モデレーター | 金井直(あいちトリエンナーレ2016 国際展キュレーター)

多様な素材・技術・アイデアによって日々生みだされる現代美術作品は、未来
にどのように伝えられるべきでしょうか。保存修復の観点から考察しました。
参加人数84人

9月19日(月・祝) レクチャー

「見えない粒子で宇宙をさぐる—スーパーカミオカンデとニュートリノ—」
スピーカー | 毛利勝廣(名古屋科学館・プラネタリウム主任学芸員) × 田中由紀子(あいち
トリエンナーレ2016エデュケーター)

目には見えない光の粒を捉えることによって宇宙の何がわかるのか? ニュート
リノ研究の最前線から「見る」ことについて考察しました。
参加人数91人

9月24日(土) レクチャー

「ものづくりとアートの接点 トヨタのDNAとデザイン」
スピーカー | 布垣直昭(トヨタ博物館館長) × 田中由紀子(あいちトリエンナーレ2016エデュケーター)

アートとものづくりの接点としてのデザインを、トヨタの三河気質やあいちの
歴史文化から考察しました。
参加人数41人

9月24日(土) フィールドワーク

「長者町の「いま」と「むかし」を歩く」
講師 | ふるかはひでたか(美術家)

長者町のまち歩きを通して、過去と現在が交錯する時空間トリップを体験しま
した。
参加人数15人

9月25日(日) レクチャー

「ダンスは何に挑戦するのか?」
スピーカー | 石井達朗(舞踊評論家) × 唐津絵理(あいちトリエンナーレ2016 パフォーミン
グアーティスト)

9/24(土)・25(日)にオアシス21で開催された「虹のカーニバル」にちな
んで、20世紀後半から現在に至る新しいダンス—その創造力はどこに
あるのかを考察しました。
参加人数61人

10月1日(土)、2日(日) 国際シンポジウム

「文化・成熟・発酵」
登壇者など | 藤川哲(山口大学教授)、ルイス・ビッグス(フリーランス・キュレーター)、
ボース・クリシュナマチャリ(キュレーター/アーティスト)、飯田志保子(インディペンデント・
キュレーター/東京芸術大学准教授)、安田文吉(東海学園大学特任教授)、味岡伸太郎(あいち
トリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)、関口涼子(同)、港千尋(あいちトリエンナーレ
2016 芸術監督)、拝戸雅彦(あいちトリエンナーレ2016 国際展チーフ・キュレーター)、服部浩之
(あいちトリエンナーレ2016 国際展キュレーター)、金井直(同)

外部からの視点を持ちより「あいちトリエンナーレ」について考え、さらに芸術
や美術とは区別されがちな「食」や「味覚」に関する視点も差し込みながら、
「芸術祭」、「文化」について考えました。
参加人数129人

10月7日(金) レクチャー

「歌・声まね・ダンスによるコミュニケーション—ヒトとトリの比較—」
スピーカー | 関義正(愛知大学准教授) × 加藤慶(あいちトリエンナーレ2016 国際展アシ
スタントキュレーター)

動物には珍しい「発声学習(声まね)」能力。これを手がかりにヒトとトリの
コミュニケーションの共通点・相違点を考察しました。
参加人数31人

10月10日(月・祝) シンポジウム

「メディア・アートとは何か? IAMAS 20周年から考える」
パネリスト | 久保田晃弘(多摩美術大学教授)、関口敦仁(愛知県立芸術大学教授)、
三輪眞弘(IAMAS教授)、吉岡洋(京都大学こころの未来研究センター特定教授)

モデレーター | 松井茂(IAMAS准教授)

メディア文化の担い手の養成を目的に、1996年に開学したIAMAS。開学
当初からIAMASに関わる面々が、メディア・アートの20年を総括しました。
参加人数128人

10月15日(土) フィールドワーク

「岡崎の「いま」と「むかし」を歩く」
講師 | ふるかはひでたか(美術家)

岡崎のまち歩きをとおして、過去と現在が交錯する時空間トリップを体験しま
した。
参加人数11人

10月15日(土) レクチャー

「ゲームの何を保存する? ゲームのアーカイブと芸術の哲学」
講師 | 松永伸司(東京芸術大学教育研究助手)

何を集めて何を展示すればいいのか。ビデオゲームの収集保存や展示の前提
となる収集対象の同一性や種類、範囲を、芸術作品の存在論の観点から
整理しました。
参加人数32人

トリエンナーレスクール

あいちトリエンナーレ2016に向けて、現代アートを楽しみながら学んでいただくためのレクチャーシリーズ。テーマやコンセプトに込められた人間の創造性に、さまざまな角度から迫りました。

共催 | 名古屋美術館、ユネスコ・デザイン都市なご推進事業実行委員会、豊橋市、古戸花祭保存会、愛知県陶磁美術館
※ゲストなどの肩書きは開催当時のもの

第1回 2014年8月30日(土) 参加人数107人
「デザインのヒミツ」
ゲスト | 廣村正彰(グラフィックデザイナー)
進行役 | 江坂恵里子(国際デザインセンター 海外ネットワークディレクター)

第2回 2014年9月13日(土) 参加人数107人
「アジアの新しいアートマーケットのヒミツ」
ゲスト | 大田秀則(オオタフインアーツ代表)

第3回 2014年9月20日(土) 参加人数78人
「ミュージアムショップのヒミツ」
ゲスト | 高橋信也(森ビル株式会社顧問)

第4回 2015年1月31日(土) 参加人数75人
「ブラジルの想像力 一往還する旅人たち」
ゲスト | 今福龍太(文化人類学者、批評家)

第5回 2015年2月28日(土) 参加人数88人
「日常へのまなざし 考現学に学ぶアートな視点」
ゲスト | 岡本信也(考現学採集、野外活動研究会代表)

第6回 2015年3月21日(土) 参加人数65人
「学校では学べない! オルタナティブな場での創造性」
ゲスト | 会田大也(ミュージアムエデュケーター/東京大学大学院 GCL-GDWS 特任助教)
進行役 | 服部浩之(あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター)

第7回 2015年5月31日(日) 参加人数111人
「デザインが国際展を変える! 都市を変える!」
ゲスト | 永原康史(あいちトリエンナーレ2016公式デザイナー)、
ジョージアヌ・フラン(サンティエヌヌ市シテ・デザイン国際部長兼高等美術デザイン学校国際部長)、
マリニョゼ・ラクロワ(モントリオール市都市経済計画部デザイン担当局長)
進行役 | 江坂恵里子(国際デザインセンター)

第8回 2015年7月25日(土) 参加人数92人
「創造するホモ・サピエンス 洞窟壁画にみる人類のクリエイティビティ」
ゲスト | 五十嵐ジャンヌ(東京藝術大学美術研究科博士リサーチセンター)

第9回 2015年9月27日(日) 参加人数61人
「Maker×Art Makerムーブメントが広げるアートの可能性」
ゲスト | 小林茂(情報科学芸術大学院大学 IAMAS 産業文化研究センター教授)
進行役 | 河村陽介(あいちトリエンナーレ2016テクニカルコーディネーター)

第10回 2015年12月5日(土) 参加人数85人
「素材で表現する」
ゲスト | 味岡伸太郎(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
進行役 | 押戸雅彦(あいちトリエンナーレ2016国際展チーフ・キュレーター)



第11回 2016年1月31日(日) 参加人数93人
「文学、そして表現活動を通してみるアラブの現代」
ゲスト | 岡 真理(京都大学大学院人間・環境学研究所教授)

第12回 2016年3月5日(土) 参加人数100人
「宇宙を移動する目と移動する光 一天文学の最前線」
ゲスト | 毛利勝廣(名古屋科学館主任学芸員)
進行役 | 港 千尋(あいちトリエンナーレ2016 芸術監督)

第13回 2016年4月16日(土) 参加人数80人
「アートは社会に耳をかたむける —20世紀前衛運動の始まりから—」
ゲスト | 白川昌生(あいちトリエンナーレ2016 国際展参加アーティスト)
進行役 | 金井直(あいちトリエンナーレ2016国際展キュレーター)

第14回 2016年5月28日(土) 参加人数41人
「アジア、沖縄からあいちへ —映画・人・場をつなぐ—」
ゲスト | 濱 治佳(あいちトリエンナーレ2016映像プログラムキュレーター)

第15回 2016年6月11日(土) 参加人数93人
「山田うんとまなぶ花祭 —レクチャー&ワークショップ—」(上写真)
ゲスト | 山田うん(あいちトリエンナーレ2016 パフォーミングアーツ参加アーティスト)

トリエンナーレスクール+

参加者が主役となるアクティブラーニング。
能動的な学びの体験やさまざまな発見の場を提供しました。

第1回 2015年6月14日(日) 参加人数14人
考現学フィールドワーク「豊橋のまちをあぐる」
講師 | 岡本信也(考現学採集、野外活動研究会代表)

第2回 2015年8月22日(土) 参加人数17人
ものづくりワークショップ「絵画のはじまり —土からつくる、土から描く—」
講師 | 佐藤一信(愛知県陶磁美術館主任学芸員)

第3回 2015年11月21日(土) 参加人数9人
ものづくりワークショップ「動く・物を・作る」
講師 | 河村陽介(あいちトリエンナーレ2016 テクニカルコーディネーター)

第4回 2016年2月14日(日) 参加人数13人
身体表現ワークショップ「からだでかたる、からだでつたえる」
講師 | 倉知可英(あいちトリエンナーレ2010・2013 祝祭ウィーク参加アーティスト)

オアシス・プロジェクト

あいちトリエンナーレ2016の開幕1年前のイベントとして実施。
愛知県内3つの文化施設で、子どもも大人も楽しめる3つのプログラムを「わくわく!オアシス」「よくみる!オアシス」「どろんこ!オアシス」として展開しました。

共催 | 愛知県陶磁美術館、愛知県児童総合センター(公益財団法人愛知公園協会)
協力 | 愛知県美術館、名古屋学芸大学

●わくわく!オアシス
愛知県児童総合センターで開催された「なんだかうれしい!てらんかい」にて、あいちトリエンナーレ2016国際展参加アーティストによる展示やプロジェクトを実施しました。
会期 | 2015年7月18日(土)~8月31日(月)
展示 | ニコラス・ガラニン、三田村光土里、クリス・ワトソン
入場者数 | 15,321人
プロジェクト | 三田村光土里「アート&ブレイクファスト デー」(写真1、2) 参加人数63人

●よくみる!オアシス
愛知県美術館で開催された「芸術植物園」(8月7日~10月4日)を会場にして、「赤ちゃんを運んだ保護者」、「家族」、「子ども」のための3つの鑑賞プログラムを実施しました。

ベビーカーでギャラリーツアー(写真3)
展示会担当学芸員と一緒に、ベビーカーに乗った子どもと大人がゆったり作品鑑賞を楽しみました。
対象 | 18ヶ月までの子どもとその保護者 参加人数4組

子から親へ。親から子へ。なりきりガイドショー!(写真4)
子どもと大人がチームに分かれて、それぞれが鑑賞した作品について即興劇で紹介してもらいました。
対象 | 小学3年生以上の子どもとその保護者 参加人数2組

アート気になる隊!キミが隊長!(写真5)
グループ内で順番に隊長となって、気になるところをみんなに伝え、じっくり鑑賞しながら気になったことや不思議に思うことを話し合いました。
対象 | 小学生 参加人数10人

●どろんこ!オアシス
「やきもの」を専門に所蔵・研究して公開し、「土」にまつわるさまざまな活動を展開している愛知県陶磁美術館の陶芸館を会場にして、「土」を体いっぱい感じるワークショップを実施しました。

いろいろであそぶ(写真6、7)
4種類の陶土を使って手足をどろんこにしながら、「土」から「どろ」へ、「どろ」から「土」へ、いくつもの表情をみせてくれる「土」の感触や色彩などの変化を体験しました。
対象 | 年長児から小学生 参加人数52人

大地の大壁画を描く(写真8~10)
陶磁美術館の敷地内で集めた土を絵の具にして、土そのものの絶妙な色彩を発見しながら、大きな壁画を描きました。
講師 | 味岡伸太郎(あいちトリエンナーレ2016国際展参加アーティスト)
対象 | 小学生 参加人数17人



活動カレンダー

2014.8～ 2016.6	トリエンナーレスクール(全15回)、 トリエンナーレスクール+(全4回)
2015.7～8	オアシス・プロジェクト
2016.2～7	アーティスト派遣事業(オスカー・ムリーヨ)
2016.5	アーティスト派遣事業(松原慈)
2016.6	アーティスト派遣事業(山田うん)
2016.9	アーティスト派遣事業(佐藤克久)
2016.8/11	あいちトリエンナーレ2016開幕
8/11～10/23	4つの活動拠点 「ダミコルーム、エスタシオン、キャラヴァンファクトリー、 ライブラリー／プラットフォーム」
8/15～10/23	鑑賞プログラム「ガイドキャラヴァン」
8/15～10/21	鑑賞プログラム「団体鑑賞プログラム」
8/12	シンポジウム「トランスディメンションーイメーজの未来形」 アーティストトーク／シュレヤス・カルレ
8/13	レクチャー「沖縄ーソウル：アジア／アート／ 女性の視点から自作を語る」 アーティストトーク／ グリナラ・カスマリエワ&ムラトベック・ジュマリエフ アーティストトーク／ヨルネル・マルティネス
8/14	アーティストトーク／タロイ・ハヴィニ オープニングシンポジウム「旅・創造・共同体」
8/15	アーティストトーク／松原慈
8/19	ワークショップ「どうくつに絵を描こう」
8/20	ワークショップ「アーティストメント」
8/21	鑑賞プログラム「ベビーカーツアー」 シンポジウム「言葉の記録 日本現代美術の オーラル・ヒストリーー80年代後半から90年代前半の 名古屋のアートシーンをめぐってー」
8/23	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」
8/24	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」 ワークショップ「どうくつに絵を描こう」
8/25	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」
8/26	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」
8/27	鑑賞プログラム「ベビーカーツアー」 レクチャー「ビクトル・ダミコのアートティーチング・トイ ー動機づけの原理ー」
8/28	レクチャー「アートに音を視る」
9/2	ディスカッション「芸術祭における人材育成と雇用を考える ーレクチャー&ディスカッションー」

9/3	コラムプロジェクト「交わる水ー邂逅する北海道／沖縄」 によるプログラム「旅するお弁当」 アーティストトーク／岡部昌生 レクチャー「美術の世界へようこそ！ ー歴史を旅するボードゲームで遊ぶー」
9/4	鑑賞プログラム「聴覚に障がいのある方との鑑賞会」 レクチャー「シルクロードにおける文化遺産の危機と保護： シリア・イラクを中心に」
9/10	小林耕平さんによるプログラム 「東海道中膝栗毛を5分で表現する」 レクチャー「浅野祥雲ーB級と文化・美術のはざまでー」
9/11	鑑賞プログラム「かぞくキャラヴァン」 アーティストトーク／佐々木愛 レクチャー「展示照明のワークショップ」
9/17	鑑賞プログラム「ベビーカーツアー」 レクチャー「なぜものがそう見えるのか？ 視知覚のメカニズム」
9/18	シンポジウム「現代美術の保存と修復」 アーティストトーク／中村裕太
9/19	鑑賞プログラム「かぞくキャラヴァン」 レクチャー「見えない粒子で宇宙をさぐる ースーパーカミオカンデとニュートリノー」
9/22	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」 アーティストトーク／野村在
9/24	高校生鑑賞プログラム「人間の旅をはじめよう」 フィールドワーク「長者町の「いま」と「むかし」を歩く」 レクチャー「ものづくりとアートの接点 トヨタのDNAとデザイン」
9/25	レクチャー「ダンスは何に挑戦するのか？」
9/29	鑑賞プログラム「聴覚に障がいのある方との鑑賞会」 鑑賞プログラム「視覚に障がいのある方との鑑賞会」
10/1	鑑賞プログラム「視覚に障がいのある方との鑑賞会」 国際シンポジウム「文化・成熟・発酵」
10/2	国際シンポジウム「文化・成熟・発酵」 二藤建人さんによるプログラム「だれかの重さを考える」
10/7	レクチャー「歌・声まね・ダンスによるコミュニケーション ーヒトとトリの比較ー」
10/8	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」
10/10	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」 シンポジウム「メディア・アートとは何か？ IAMAS20周年から考える」
10/15	鑑賞プログラム「ベビーカーツアー」 フィールドワーク「岡崎の「いま」と「むかし」を歩く」 レクチャー「ゲームの何を保存する？ ゲームのアーカイブと芸術の哲学」
10/16	鑑賞プログラム「こどもキャラヴァン」 アーティストトーク／関口涼子+フェリペ・リボン×港千尋
10/21	鑑賞プログラム「イスに座って鑑賞会」
10/23	あいちトリエンナーレ2016開幕

普及・教育企画体制 |
 チーフ・エデュケーター 伊藤優子
 エデュケーター 田中由紀子、寺島千絵、松村淳子
 アシスタント・エデュケーター 霜山博也、谷澤陽佑
 コーディネーター／現代美術 近藤令子、辻本泰子
 コーディネーター／普及・教育 千葉浩子、藤井真由
 (以上、愛知県国際芸術祭推進室)

共催 |
 愛知県高等学校文化連盟
 愛知県児童総合センター [20周年記念事業]
 名古屋市美術館 [夏休み こどもの美術館 2016]
 IAMAS (情報科学芸術大学院大学)
 あいちトリエンナーレ2016岡崎会場実行委員会
 ※会期外のプログラム(トリエンナーレスクール及びオアシス・プロジェクト)については各ページに記載

協力 |
 ビクトル・ダミコ・インスティテュート・オブ・アート
 前田ちま子 (Victor D'Amico Institute of Art, Honorary Board Member)
 愛知県児童総合センター
 愛知県美術館
 アートな美
 六点会
 NPO法人愛知県難聴・中途失聴者協会
 科学研究費(基盤研究A)「現代美術の保存と修復」
 ※会期外のプログラム(トリエンナーレスクール及びオアシス・プロジェクト)については各ページに記載

写真提供(一部) |
 あい撮りカメラ部

あいちトリエンナーレ2016

エデュケーション 活動報告

Aichi Triennale 2016
 Educational Activity Report

デザイン |
 溝田尚子

編集・発行 |
 あいちトリエンナーレ実行委員会
 2017年3月

